



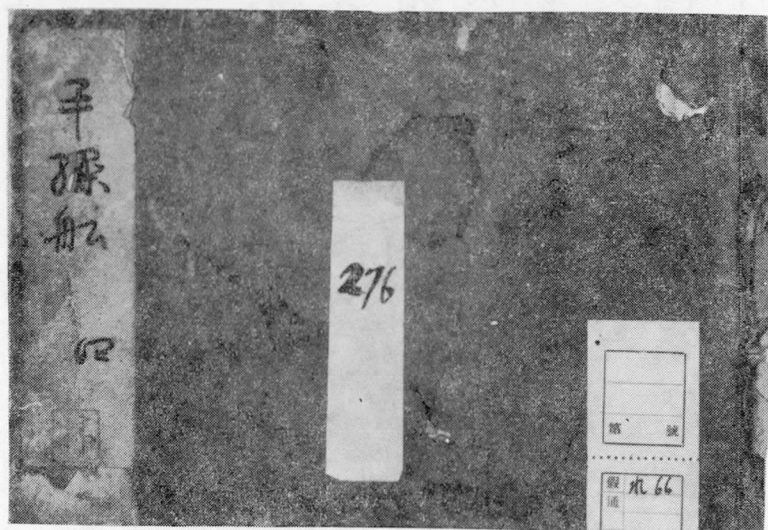
Title	影印『手繰舟』四
Author(s)	
Citation	語文. 1978, 34, p. 39-79
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68643
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

手
繰
舟
四



手經舟卷第四秋

題

初秋 宿入 秋柳 殘暑 秋蚊 秋茄子 生見魂 施餓鬼 魂索

七夕 一祭 秋軒 秋蟬 秋扇 鬼灯 蓮飯 付指頭 荷待 蛇乾

花火 桐撲 桐 去 霧 文月 八朔 朝白 仙菊花 芙蓉 屑 付尾花 楊柳葉

躍 萩 萩 床 露 稿書 秋鷹將 木槿 桔梗 草花 梅紅葉 金魚花

蘭 蒲菊 葛 表多聚衫 駒込 名月 付十四日
十六日 放生會 長夜 鴨 石衣 蜻蛉 蛭

芭蕉 秋田 芋 付暮秋 暮風 月 十三夜 住吉市 鴈 重陽 鷄 鱸 菊

極 色鳥 才寶 茸持 葛 心木 紅葉 秋所系 沢鮎 鮭 付佳佳 秋時雨 雜秋

鵲 梅姬 柑類 木綿 柞 色聚 名木聚 紅葉鉤 獨引 新酒 九月盡

一葉舟に柳の影の家を^傳り
経きしも^傳一葉やは舟^傳の
一葉舟人なれや^傳揚陸^傳る^傳
白はよ^傳ぬ^傳一葉や^傳え^傳ん^傳私^傳は^傳

秋柳

名の^傳て^傳おや^傳柳^傳の^傳影^傳
一葉舟^傳も^傳なる^傳柳^傳の^傳影^傳
^{大板}以^傳仙

秋雲

秋雲も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳飛^傳野^傳
^{大板}家^傳矢

残暑

残暑も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
是も^傳又^傳残暑^傳も^傳風^傳の^傳影^傳
秋風^傳も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
^{大板}正^傳候

秋蟬

秋蟬も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
秋蟬も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
秋蟬も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
秋蟬も^傳一葉^傳の^傳影^傳を^傳風^傳の^傳影^傳
^{大板}春^傳良

秋風は蝶乃衣や袖ちと^{大後}保佐

秋蚊

秋風は蚊うきをれ蚊帳^{大後}も也
蝶乃衣^{舟元}や二三^{吉重}近
秋^{信長}も^{宗後}いふ乃あ^{信長}う^{宗後}は喰

秋扇

秋風^{大後}も^{但重}と^{但重}あ^{但重}に^{但重}お^{但重}撲^{但重}け^{但重}
袖^{大後}を^{大後}や^{大後}秋^{大後}風^{大後}の^{大後}う^{大後}ろ^{大後}る^{大後}扇^{大後}
と^{大後}は^{大後}を^{大後}風^{大後}乃^{大後}と^{大後}へ^{大後}乃^{大後}扇^{大後}れ^{大後}
扇^{大後}と^{大後}と^{大後}け^{大後}も^{大後}勝^{大後}は^{大後}は^{大後}乃^{大後}と^{大後}曰^{大後}

ち^{大後}は^{大後}破^{大後}き^{大後}扇^{大後}や^{大後}并^{大後}や^{大後}紫^{大後}衣^{大後}

秋茄子

價^{大後}も^{大後}や^{大後}百^{大後}一^{大後}は^{大後}秋^{大後}茄^{大後}子^{大後}勝^{大後}敗^{大後}
と^{大後}人^{大後}も^{大後}毎^{大後}道^{大後}を^{大後}行^{大後}き^{大後}
かり^{大後}は^{大後}秋^{大後}茄^{大後}子^{大後}と^{大後}や^{大後}秋^{大後}茄^{大後}子^{大後}永^{大後}重^{大後}

秋成金

言^{大後}ふ^{大後}や^{大後}ま^{大後}あ^{大後}き^{大後}の^{大後}秋^{大後}茄^{大後}子^{大後}格^{大後}了^{大後}水^{大後}

鬼灯

鬼^{大後}灯^{大後}や^{大後}ま^{大後}あ^{大後}き^{大後}の^{大後}出^{大後}て^{大後}は^{大後}乃^{大後}中^{大後}
か^{大後}う^{大後}き^{大後}と^{大後}は^{大後}乃^{大後}や^{大後}ま^{大後}あ^{大後}き^{大後}収^{大後}春^{大後}

生見魂

いづるなうやせとも生玉藤列 網通

蓮飯 付指膳

蓮乃飯素お厭ねおれ外標 方寸

蓮乃いふ心ちやけん玉同 方寸

実方れ玉同 蓮乃飯 利房

能中ちきん膳をいふ同 膳也 賢叔

施飯鬼

おまの同をいふもせに片肥方 心

みそ蘇や茶れ下る水標 満

水せり魚もいふ同 満

せり心蘇たされ衣同 利房

信りまや茶あせり同 利房

龍乃あうりてせり同 心計

おろあのもて車やせに棚棚泉 全休

接待

接待乃切使もあう外大 標

接待乃今公もいふ同 茶碗 吉真

接待乃同をいふ茶巾同 茶色

なる茶も接待乃命もいふ大板 友也

魂糸

もし人といふとあつた魂糸 糸
 客を合ふとつらなりやれ 糸
 じり火や光明のやぐ 糸
 水じけら蓮乃 糸
 うかたはじも水 糸

地糸

細きや清き 糸
 むのり糸や 糸
 天けるも照る 糸

花火

火とともせ 糸
 甲子向く 糸
 灯の乃 糸
 客あ 糸
 花火 糸
 竹 糸
 月 糸
 花火 糸
 花火 糸
 花火 糸

13

四新乃此は使若くして康乃
 鳴康乃声乃新ハ神也長
 知いまで康乃をうし愛想
 一六

夕茅ハ服帶と云也修麁の基之
秋乃種也茅と云は種麁曲
通食と云

妙峰寺も此の寺なり
 寺衣

行 是 意 之 所 爲 也

白雲水子口和鏡子案

善提樹乃方也水曰乃鍾於玉

武田中興のりなり文と戸一瓢

ち、井とくまふちし、大坂 宜久
 ち、河ねけふちし、堺 吉次

文月より、校書自直自續、
時并に清島より文月、
基三

つゝあゝいふやまの何^傳 正恒

朝魚

暮^{大夜}の餘にうしてやまの何^傳 正恒

朝魚や目^{大夜}にさうゆ散^傳 正恒

朝魚や目^{大夜}にさうゆ散^傳 正恒

暮^{大夜}の餘にうしてやまの何^傳 正恒

木槿

八重垣に八重さふいむ^傳 正恒

仙翁花

散^傳の八重乃^傳さう仙翁花^傳 正恒

桔梗

南^傳京の^傳桔梗花^傳 正恒

芙蓉

むに砂^傳もむに芙蓉^傳 正恒

草花

花^傳は海^傳や一日^傳れ来^傳る日^傳紅^傳 正恒

たてゆや智を去る勢知
少将より原野へ下り通ふ
子傳

芳子其人

天より大地までなりて思ふ
秋の野やすくに雲霞屏凡大坂
金棒とけくやさるべしむね数多勝政
も軍かけぬ先や駒つ言一橋走車
夜半に最六更う見ゆが同度次
三々茂切やふれたふれが大坂赤軍

傳付尾花

繪より風や雪降るを
宗麟

野あそいともわが海へ落し候
 夢もまじなるや棉乃い落す可也
 夢中にてくさくさ落しかば
 綿の針をかく比糸落し候
 をくさくさとくさくさ落す
 尾毛とよみ大老乃も情あり

梅紅紫

をにきてへり梅の紅を
花を

橘紅桑

おのゝもゝくや此橘^{大坂}龍^仙

女即我

其我邦やむとひたけと女帝ノミ一忘
 今ハハ益國にふと女帝ノミ凡也
 煩悩乃るまなれや女帝ノミ政長
 をまう田東津と色か那子地膝段

打水やむひれふふふふ 異相
尺でふくきふふふ 尺を誇一匹
風ふむふふふふふふ 大坂 交也

芭蕉

布と織人之色蕉乃女ふ
利考
うと蝶や色も芭蕉の体太
能太
大
ふ
と芭蕉や破軍に覆下
似仙
破軍ふや芭蕉より福野
宣

はるに付や蒲萄の棚に雲たて 似き
星も酒みだるふりなりとてもゆ 種矢
吹おとくや蒲萄の枝に風はな 名

秋田

新田は縄をうけるなるに
編みふく人なりしハ
三膳入山田り大生實信然
去るもやうきうきう西借
捨人うけられんきいし田
ふかき通ふ山田や麻地
重れよ堂もとく家田中
淀裡より明田乃梅やお子
母なる梅や園土れ人乃柱
鬼乃持樞なつ日せの来

大坂 如我
堺 海島
同 矢成
同 石心
大坂 美守
布見 一志
堺 谷光
大坂 玄朝
同 孝政
大坂 西頭

うにかき葛粉乃肉丸古名傳煮次
きしき葛素麵粥牛乳煮次

芋 付薯蕷

里芋やくだらぬききわくき 揚 玉槐
 芋れきあのおかり金利八 同 六の久
 むき 大坂 小浜 強やみ 大坂 なる山 芋 膝 脇
 深 山 もも 山 や 山 又 山 かい 山 葛 類 山 仙 石
 とな 山 へ 山 や 山 是 山 も 山 何 山 なる 山 芋 揚 万 廣
 時 山 々 山 ぬ 山 くら 山 芋 山 々 山 なる 山 芋 同 成 山 之

長多樂

義なきことなくして言せり一季子
 あまえにほまれありて市史純大友 反佐
 あたふ今こそなりや也同 初委
 あまえこそ春を身成かたき偶并井 直信
 吹くより胡る雪やあたま同 保良
 火乃ひより救下もあた同 成之
 若きやういそ候あたま同 佐家
 ろろこれ若野や根が義なき久九
 是も世火のあたまのあたま偶 白吟

暮風

ふれふ岩のりせふ子世主庸

鞠乃遅も今麻皮等神標去次
野乃吹朝乃垂やう日ま 伊秋

駒込

駒込乃書乃垂駒込大坂
雲乃上に川や駒込駒込日収春
信濃路や左腹白駒込日友也
川乃しはなやう駒込駒込大坂勝政

月

六月八題も題や奇詠標永主
尺牘と次す月よ見す大坂友 俊佐

書此乃月新のちれ會日主周
月新のせし人すわぬ友日主賢
春乃る家や心よ里月乃奇標時主
六乃めう白よと月金六月お日去次
詩かやう信濃あはれ六月日友俊
弓乃く人々乃ち六月日經光
書乃り乃るはれ六月日去次
詩人冬ふけん乃る六月日去次
重友や移ひ乃る六月日友俊
月乃れ冬乃る乃る乃る乃る日友俊
尺牘乃る乃る乃る乃る乃る日友俊
物乃れ乃る乃る乃る乃る乃る日友俊

付
五
月

世に名をひらけ明林月致也
 里あら佳きもす秋乃月立以
 雪月む中よりて秋月好重
 思ふも悲しきやも思ふ
 名月や軽入るる山草和光
 今春辛月さへさへ
 月新く生れらるる書介泰春
 己下乃鏡をいふ月也
 里はたかといふ月也
 思ふてはたかといふ月也

月下独酌

影をうつしうは横顔月人 大坂 出の
 若人乃能と書有月乃出 大坂 立以
 今有月人乃書此支下 信申 佐元
 月も書ふ人にも是も今有 天高 西森
 有る人乃歌ふ人乃月 大坂 俵真
 心なれどもあつやと月 若新 奥季
 十といひて書ふ人乃有花月 大坂 夜也
 こころ月も何れも人乃有花 信 志村
 何れも人乃有花 大坂 志村
 下なる人乃有花 信 志村
 名をうへや若新 信 志村
 永生

もろ月とて松まや藤山傳 彦次
 か月六つ十四やう人物火傳 歌成
 九よねかるや月乃風傳 藝政
 月更十二月とつれを松火傳 茶茶
 月やとてこれ共十二日傳 俊佐
 月乃ついで月を松火傳 利房
 名乃とて月を松火傳 茶茶
 急名れといふや月を傳 茶茶
 取つ月やとてこれ玉津傳 茶茶
 唐崎を西湖乃月名を傳 茶茶
 名とてとて松まや藤山傳 定之
 茶とてとて松まや藤山傳 茶茶

蓮草れあやむくや月傳 彦次
 村やとて松まや藤山傳 茶茶
 中れ松まや藤山傳 茶茶

十三松

二方乃とて月を松火傳 茶茶
 二ヶ月やとて松まや藤山傳 茶茶
 一ヶ月とて二ヶ月を松火傳 茶茶
 二ヶ月とて二ヶ月を松火傳 茶茶
 二ヶ月とて二ヶ月を松火傳 茶茶
 二ヶ月とて二ヶ月を松火傳 茶茶

救世會

多に魚や二ひすはなれ
 大板 矢細
 今より哥や生はとれらぬ
 平北
 救世金神ははらりとまふ也
 勝政

佐市

出賣や賣は、殊に乃市佐々木 宋後每

佐々木四郎も市より金買買て
その橋やうに佐々木乃棚大後収入着

长欣

乙未年八月廿九日
 秋末 一書

鷹

あちれむかやまのうら
夕暮をこれ程梅うては
戸門やまにむきありけり
声々帆々舟舟々々
膝改

へはくふもや杖乃云笑大坂
 ちるこれ大坂 同もいひ大坂 来手
 水川あはれさうもいひ大坂 一六
 ところろふたふたふたふた大坂 運勝
 かきふたふたふたふた大坂 玄朔
 能国をからま大坂 玄朔 運勝
 枝喰まきまき大坂 清勝
 肩鳴まきまき大坂 清勝 初初

梅姫

ちるこれ大坂 同もいひ大坂 来手
 水川あはれさうもいひ大坂 一六
 ところろふたふたふたふた大坂 運勝
 かきふたふたふたふた大坂 玄朔
 能国をからま大坂 玄朔 運勝
 枝喰まきまき大坂 清勝
 肩鳴まきまき大坂 清勝 初初

梅乃云乃云乃云乃云大坂 友也

本寶

ちるこれ大坂 同もいひ大坂 来手
 水川あはれさうもいひ大坂 一六
 ところろふたふたふたふた大坂 運勝
 かきふたふたふたふた大坂 玄朔
 能国をからま大坂 玄朔 運勝
 枝喰まきまき大坂 清勝
 肩鳴まきまき大坂 清勝 初初

持るるやもた

持るる二つもへれは長三毫一偏

それ味やまをうれおせ持標短光

きてくれおるうもあし持大坂交也

中が給やまふもええ索望持標利欠

才練あも給るもろく持標久九

智してや松極二つより持標津花

才んさや指よりる耳松極同自延

若郎よりうへにふもる名松極同百廣

るう高水六郎也ひやも同方寸

付てせもあもれ約や丹は物同長房

大いしやもる風味る名松極同重刑

ふもや松がれるる字解大坂一六
あまはむもやめえ申さる長房長勝

相類

あふく金れ金る柳まろ長房長美

又ふりうけりし柳一層白同交欠

懐中れか人も白ひ袋小同宋恒

かろ中六代八代も人小長房右和

紀伊國やまら名を清し長房吉次

これあう安系國や仙手相長房留去

茸猪

正木

親王様う正木様うう系 課
 山形や正木様うう系 課
 桶乃桶もいり正木様うう系 課

色紫

吹風う居室多ふいりは片 春春
 秋乃いりは顔室の作大 課
 秋乃もあふかりやあ紫様 課
 口即やいり紫様秋乃又 課
 丁合し事てあ大様う付大 欠伸

紅葉

お紫さんやいりは様乃がうん 大板
 西乃乃やう自時あてお紫さん 課
 お紫さんやあ紫園まはる紫 課
 ていり事とけいり紫さん紫 課
 酒乃紫もいり紫心ふいりお紫 大板
 餅乃魚や紫お紫乃いり紫 課
 作乃やあ紫紫様乃いり紫 課
 仲乃や紫乃いりお紫紫 大板
 白紫やあ紫乃いりお紫紫 課
 紫乃紫やあ紫乃いり紫 一喰

十月のやみちれ下りしや 標 下
 日るやみちれ下りしや 同 下
 日るやみちれ下りしや 同 下
 日るやみちれ下りしや 同 下

春のやみちれ

春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下

秋のやみちれ

秋のやみちれ 下
 秋のやみちれ 下
 秋のやみちれ 下
 秋のやみちれ 下

春のやみちれ

春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下
 春のやみちれ 下

月一に南より紅紫鮎標 鮎先
子紫鮎や赤鮎より大坂 鮎先

淡鮎

さしほれやせふれあむ大坂 鮎先
居りおしめれう個の鮎大坂 鮎先

鰯引

鰯の腹又膽より大坂 鰯引

鮭 付に鮭

東よりいりて鮭や鮭大坂 一六

初鮭ハ越後より大坂 鮎先
紅鮎より大坂 鮎先
かゝるや大坂 鮎先

新酒

新酒の無きより大坂 鮎先
さしほれやせふれあむ大坂 鮎先
新酒の通じ訓なる大坂 鮎先
減めと新酒や大坂 鮎先
さしほれやせふれあむ大坂 鮎先

唐花も声やん秋乃ねえ^標
いふ言て物や太刀^{大後}はな^心は

な摩あう

隔心な言そき^日は^復あ
武が師ハいそや^深な^まれ^に秋乃
むい^標け^標れ^標や^標ま^標ふ^標服^標中^標経^標走^標
お^標れ^標乃^標業^標や^標妹^標成^標れ^標乃^標妹^標 末^標成